

火曜午餐会忘年の会

火曜午餐会12月例会を「忘年の会」として、6日12時15分から当部5階大会議室にて開催した。

まず最初に、豊澤副会長が参加者への御礼の言葉と共に「コロナで長らく事業が出来なかったが、3年ぶりに文化啓発員会主催で、11月21日から23日、2泊3日で、横浜・横須賀・鎌倉・熱海・箱根への旅を楽しんできた。来年は積極的に事業を開催していく所存ですのでよろしくお願ひします。皆様におかれましてはお元気でご越年下さり良いお年をお迎えください」と挨拶された。

【ヴァイオリンとチェロの 弦楽二重奏】

忘年会恒例の演奏会。今年のゲストは、奈良フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニスト、袴田さやかさんと、チェリスト西川彩乃さん。大原末子団長の挨拶の後、厳かに弦楽二重奏の演奏が始まった。

クリスマス前の12月にふさわしい演奏曲は以下のとおり。

- ① 「ホーンパイプ」(ヘンデル)
- ② 「カノン」(パッフェルベル)
- ③ 「ヴァイオリンソナタ」(ヘンデル)
- ④ 「主よ人の望みの喜びよ」(バッハ)
- ⑤ 「無伴奏(チェロソロ)」(バッハ)
- ⑥ 「クリスマスドレー」 「もろびとこぞりて」 「ファーストノエル」
- ⑦ 〈アンコール〉 「ホワイトクリスマス」

最後に、大原団長は、「バッハ、ヘンデル、モーツァルトの時代は、貴族のお屋敷の一部でサロンコンサートが開かれていました。今日は、その時代の雰囲気を感じて頂けたらと選曲し、演奏させて頂きました」と挨拶された。

まさに、師走の気ぜわしい中、ひとときではあったが、参加者は、王家の宮殿のサロンに居るような贅沢な時間を過ごして、本年最終例会を無事締めくくった。

【演奏者プロフィール】

〈ヴァイオリニスト〉

袴田さやか (ハカマダサヤカ) 様

京都市立芸術大学音楽学部弦学科卒業。ヴァイオリンを辻井淳氏、岩淵龍太郎氏に師事。霧島国際音楽祭に二度、ニース国際音楽アカデミーに三度参加、フランス各地でコンサートに出演。奈良フィルとサン・サーンズのバイオリンコンチェルト、八尾フィルとモーツァルトのシンフォニーコンチェルトを共演。ソロリサイタルを二度、Duoリサイタルを三度開催。クラシック、ポピュラー、タンゴ、叙情歌、演歌、仏教音楽などジャンルを問わず演奏活動している。

〈チェリスト〉

西川彩乃 (ニシカワアヤノ) 様

10歳よりチェロを始める。相愛高校音楽科を経て、学費全額免除の特別奨学生として相愛大学音楽学部を卒業。03年、石川ミュージックアカデミーに参加。05年、円光寺雅彦指揮、ソリストとして相愛オーケストラとサンサーンズコンチェルトを共演。07年学年内選考オーディションを経て、「アンサンブルのタベ」に出演し、08年、西川千紘、綾乃デュオリサイタルを開く。09年、元ウィーンフィルチェリスト、アダルベルト・スコッチ氏と共演。10年、8月にピアニストで桐朋学園特任教授の田崎悦子氏と共演。10年、3月～9月までTBS音楽番組「～音楽～聴まにクラシック」に出演。これまでに上田康雄氏、斎藤千秋氏、太田真実氏、斎藤建寛氏、秋津智承氏、林



裕氏に師事。現在、iTunesにてデジタルアルバム「スーベニア」「シークレットマリッジ」を世界21カ国にリリースしている。

【奈良フィルハーモニー管弦楽団】

奈良フィルハーモニー管弦楽団は「奈良にプロ・オーケストラを」と志ある音楽家たちが集い、1985年に初代団長(故)全良雄氏が創立。メンバーは高度な音楽教育を受け、ソロやアンサンブル等にも活躍する他、積極的に後進の指導にもあたっている。その音の美しさ、綿密なハーモニーと高い芸術性は聴衆から高く評価を受けている。重厚なクラシックスタイルから親子向けファミリーコンサート、そしてレクチャーコンサートからサロンコンサートまで、幅広い顔を持つオーケストラとして奈良県に広く親しまれている。奈良県をはじめとして県内自治体主催コンサートやフェスティバルに、また県内各所の文化会館やホールの主催公演にも多数出演し、地域の文化芸術の発展に貢献している。県外においても近畿一円の公共団体及び各種団体にも招かれ、各地で演奏活動を行っている。今では「わが町・奈良のプロ・オーケストラ」として多くの県民の強い支持を得ている。全国32番目のプロオーケストラとして日本オーケストラ連盟に籍を置く。